

ITでコミュニティ創出

ネットワーク 東根インターネットクラブ 伊勢 博



八年ほど前、仕事の都合でマレーシアに住んでいた時、故郷である東根市を思い出して東根地域のホームページを検索したらたった一件だけ見つかった。そのホームページには東根市の堂の前公園の紅葉した山々の風景写真が掲載してあり懐かしく、「まさか海外からこんな故郷の写真が見れるとは！」と思いつつ感動した。また、このホームページの掲示板がきっかけでブラジルに移住された東根市出身の方と電子メール交換をする機会もあり、まさにインターネットで国境を越えた情報交換が簡単に出来ることを実感した。ただ、残念だったのは、もともと東根地域の情報を知りたかったのに、情報を提供しているページが一つしかなかったことである。

「インターネット」というと世界中に情報発信できて世界中の情報が手に入るという個人的な観点での利用方法が思いつくが、私たちの生活に必要な肝心の地域情報、その情報が遅れているということに気がついた。

情報高速ネットワークとして全国的にブ

ロードバンド化（高速・超高速インターネット）が進んでおり、山形もケーブルテレビをはじめADSLなどの常時接続環境が進んでいるが、単にこのまま高速ネットワーク網が進むだけでいいのかどうか。ここで、似たケースとして思い起こさなければならぬのが、国土発展のために行なわれた道路整備計画（高速交通網）である。国道や高速道路を網の目に整備し、交通手段が便利になり物流を促進させたが、結果としての国土の均衡ある発展というコンセプトは実現していない。本来は、国土を築く計画に基づいた道路計画でなければならぬのだが、本州と四国を結ぶ連絡橋を見ても分かる通り、交通手段が便利になっても地域が良くならないケースもある。大切なのは、地域のあるべきビジョンであって、その構想は地域によってつくり出さなければならぬものであり、地方自治体やさらには直接的に地域住民が参加してつくり出していかなければならぬものである。

地域のあるべきビジョンはまず行政抜きで

市民が自由な発想で夢を抱くことが大切である。各個人がいろんな夢を抱いているわけで、それらをどのように集約したらいいのか。また、いちいちみんなが集まらなくても、時間を気にしないで自由に意見交換できる場を持てたり、自分の意見を発表できるような場所とならどんなに楽しいだろう。そう思っていたところ、ITを活用すれば簡単にこのような環境が出来ることに気がついた。そして、地域住民が自由な発想でまちづくりや地域活性化の意見交換を行う手段にITを活用することを目的に「東根インターネットクラブ」(H.C. : Higashine Internet Club) が誕生した。

初めは私が発起人となり平成十二年十二月に東根市報や東根市のホームページを通じて会員募集を行った。その時、入会希望の電子メールを数人からいただいたのをきっかけにクラブのメーリングリスト（電子会議室）を運用しながらネット上で市民同士の情報交換を行った。このメーリングリストやインター



http://hic.sakuranbofarm.com

ネットをうまく活用すれば、地域でのコミュニケーションづくり、また、その利便性を生かせば生活環境向上にも役立つのではないかといい、まずはインターネットに興味のある方に集まってもらって勉強会をやってみようと平成十三年六月三十日に「東根インターネットクラブ」が発足した。

クラブが運営しているものに、メーリングリスト（電子会議室）や東根地域情報メールマガジン「大ケヤキ」発行がある。これは、市民が自ら情報の提供者になったり、市民同士で自由に情報交換ができる。ちょっとした井戸端会議やイベント情報提供などを通じて新たな人脈の構築や地域の活性化につなげていけるものである。人と人とのつながりに

よっては新たな事業を創出するなどの可能性も考えられる。

メールマガジンの場合、発行するのにコストがかからないという利点がある。従来なかつた新たな地域情報メディアとして活用していこうというH.I.C.の取り組みとして、読者である一般市民が自由に記事投稿できる参加型のメールマガジンになっている。市民による記事提供により、よりいっそう地域のきめ細かな情報が得られ、このメールマガジンを通じて市民による東根市の魅力再発見や文化、経済、教育などの分野の新たな展開につながっていくことを期待している。

インターネット上だけでもいろんな情報が世界中から得られるようになり、時間と空間を越えてしまった活用が始まっている。今後は、こういった利便性をカスタマイズして、私たちの地域活性化に向けて提案、試行すべきである。市民が必要とする情報を見いだすためには、情報を必要とする市民の手で情報化していく必要がある、自らが情報提供者としてかかわっていくことも重要である。最近、県内でもネット上にビジネスや地域での有効利用を目的としたいいわゆる「ポータルサイト（総合サイト）」が始められてきたが、これはあくまでもパーチャルである。本当に地域の人々に活用していただくには、その地域がつくりあげた伝統や風土、地域社会を踏まえ、たうえでの構想を持ち、市民参加型のネットワークづくりをすることが大切で、地域の市民が参加したネットワーク構築があつて初めて機能するものである。

インターネットが普及し始め社会構造がどんどん変わっている状況の中、地域で商売を

営んでいる方や一般市民は、どう対応していったらいいのだろう。また、近年、東根市にも大型店舗が到来してきて、特に商業圏の構造がすっかり変わってしまった感がある。こういった問題を踏まえて地域住民が新たなまちづくり構想を練っていかねばならない。東根市ではTMO構想も進んでおり、まちづくりなどの市民のアイデアが実現に向かつて進んでいる。そんな中で、東根インターネットクラブのネットワークを生かして市民みんなが参加し、自分たちの将来をつくり出していきつかけとなることを願っている。

伊勢 博

ISE Architect Studio代表。東根インターネットクラブ会長。
1958年、東京都生まれ（本籍：東根市）。秦・伊藤建築設計事務所（一級建築士）、Cabinet・Design（フランス）、Interspace Time Tokyoを経て1991年独立。その後、海外での商業施設やリゾートホテルのコーディネーターとしてプロジェクトに参加。1997年帰国。インターネット・コンサルタントのかたわら、自らネット販売を实践し消費者動向をリサーチ。2001年「東根インターネットクラブ」を設立。2002年地域情報を映像番組としてネット配信するサイト「Hot Tracks」の試験運用開始。
〒999-3701 東根市大字東根甲8475-4 電話070-5625-3295
E-mail : ise@sakuranbofarm.com
東根インターネットクラブ <http://hic.sakuranbofarm.com>
プライベート・サイト <http://www.sakuranbofarm.com/ise/>